東工大インドネシア人留学生会

-日本とインドネシアのかけ橋-

PPI Tokyo Institute of Technology:

Bridging Indonesia and Japan

東京工業大学理工学研究科電子物理工学専攻

東工大インドネシア人留学生会元会長　**ヌルル　ファジュリ**

Nurul Fajri

(Department of Physical Electronics, Tokyo Institute of Technology)

キーワード：留学生会、インドネシアの若者、外国人留学生フォローアップ

1. はじめに

東工大インドネシア人留学生会（インドネシア語では PPI Tokodai）は、東京工業大学に在籍しているインドネシア出身の留学生の会である。東京工業大学は、日本国内の大学の中で最もインドネシア人留学生が数多く在籍している大学の一つである。現在、インドネシア人留学生は 110 人在籍している。修士・博士課程の学生が最も多く、その他に学部生や研究生、交換留学生、インドネシア人の教員もいる。東工大インドネシア人留学生会は文化交流から論文大会まで様々な活動を行っている。

本報告は、東工大インドネシア人留学生会が行っている活動、特に TICA 論文大会と、昨年 9 月に東京工業大学大岡山キャンパスで、在日インドネシア人留学生協会や駐日インドネシア大使館などと協力して開催したインドネシア人留学生の世界大会について報告する。

2. 東工大インドネシア人留学生会の活動について

東工大インドネシア人留学生会は、発足当時、東京工業大学で学ぶインドネシア人留学生のホームシックを少しでも減らすための集まりであった。しかし、時がたち、東京工業大学に在籍するインドネシア人留学生が増えるとともに、文化交流やスポーツ大会、論文大会など、様々な活動に取り組むようになってきた。

本会の活動は、大きく、内部向けの活動及び外部向けの活動に分けられる。メンバーを対象とする

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

内部向けの活動は簡単に述べると、インドネシア人留学生間の友好親善を深めるという目的で行っている。また、母国と文化や気候が異なる日本での生活に慣れるため、あるいは日本の文化や独特な季節などを楽しむために様々な活動を行っている。活動の主な例として、花見会や紅葉狩り会、スキー旅行、富士登山旅行などが挙げられる。また、メンバーの中で日本語が話せない人が少なくないので、アパート契約や区役所での手続きなどの生活面での日本語をサポートしている。

その他に、本会はメンバーのために周期的にメンバー同士のゼミを行っている。東京工業大学に在籍しているインドネシア人留学生は様々な分野を専攻しているので、他のメンバーがどんな研究をしているのかを知るために、各自が取り組んでいる研究について周期的に発表会を行っている。このようなゼミは、将来のネットワーキングにも役立つと思う。発表者は東京工業大学のインドネシア人留学生に限らない。インドネシアで活躍している卒業生や著名な人たちが東京周辺を訪問する時に、可能であればインドネシア人留学生の前で発表していただきたいと、東京工業大学に招待している。最近の例としては、今年の 1 月 14 日に大岡山キャンパスにバンドン市長である Ridwan Kamil 氏を招いて講演会を行った。

一方、外部向けの活動は東京工業大学に在籍しているインドネシア人留学生だけではなく、外部の人も対象としている。例えば、アンクルンを通じた文化交流活動が挙げられる。アンクルンは、西ジャワに由来するインドネシアの伝統的な楽器であり、数年前から世界遺産として登録されている。本会のアンクルン部は、文化祭や交流会などでアンクルンの演奏を行うことでインドネシアの文化の紹介活動に取り組んでいる。また、本会は東京工業大学で行っているイベントにも積極的に参加している。例えば、毎年行われている工大祭(東京工業大学の学園祭)で、インドネシア料理を販売しながらアンクルンの演奏を行っている。昨年の工大祭で本会が企画した露店は、工大祭来訪者の人気投票で第 2 位に選ばれた。その他、本会はスポーツの活動にも取り組んでいる。本会は毎年、関東地域に在住のインドネシア人留学生のためのフットサル大会を行っている。昨年の大会では約 150 人の学生が参加した。このイベントはスポーツ大会を通じて、インドネシア人留学生間の親睦を深め、人的ネットワークを広げることを目的としている。

これらの活動の他に、本会は Tokyo-Tech Indonesian Commitment Award(TICA)という母国のインドネシアにいる大学生向けの論文大会を毎年行っている。TICA 論文大会については次節で詳しく述べる。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

また、本会は去年、在日インドネシア人留学生協会と連携し、様々な国に留学しているインドネシア人留学生の世界大会を東京工業大学大岡山キャンパスで開催した。この世界大会についても、後述する。

3. Tokyo-Tech Indonesian Commitment Award (TICA)

Tokyo-Tech Indonesian Commitment Award（以降、TICAと略する）は、東京工業大学に在籍しているインドネシア人留学生が開催する論文大会であり、東工大インドネシア人留学生会の一番重要なイベントの一つである。TICA論文大会はインドネシアにある大学の学部課程で勉強している学生たちを対象とする。そして、TICA論文大会で優勝した3人の学生を日本へ招待し、東京工業大学のキャンパスを見学し、インドネシア人留学生達の前で研究論文を発表する。このためにかかる旅費などは、東工大インドネシア人留学生会が負担する。

インドネシア人留学生は誰でも留学することを決めるときに、「将来には母国であるインドネシアの発展のために貢献できる人物になりたい」という動機を持っている。TICA論文大会は、イベント名の通り、東京工業大学に在籍しているインドネシア人留学生達の母国へのコミットメントを示すイベントでもある。インドネシアは発展途上国であり、科学技術の分野においては日本に比べて遅れているという事実がある。そして、科学技術の分野で国を支えることは研究機関や大学の役割の一つである。そこで、TICA論文大会は、インドネシアの大学で研究する学生たちを表彰することで、彼らがより積極的に研究に取り組むことを動機付け、最終的には、インドネシアが科学技術の分野でより発展することに貢献するという目標がある。

TICA論文大会は2010年から始まり、今年は6年目のイベントとなる。参加者の数は年々増えており、昨年のTICA論文大会では、インドネシアにある35の大学から175人の学生が研究論文を投稿した。投稿された175本の論文の審査を行い、最も優秀な12本の論文を選び、その論文を投稿した学生12名を、昨年8月24日にバンドン工科大学(ITB)で開催したTICA論文大会の国内決勝大会に招待した。この決勝大会は、インドネシア人東工大卒業生の同窓会と合わせて行われ、インドネシアの様々な大学や研究機関などで活躍している東京工業大学の卒業生が審査員として参加し、研究論文を発表した12名の学生から、東京へ招待する3名の優勝者を決定した。

昨年のTICAの優勝者発表会は、2014年11月9日に大岡山キャンパスで行われた。TICAの優勝者は東京工業大学のインドネシア人留学生の前で研究発表しただけではなく、それぞれの研究に関係する分野で研究を行っている東京工業大学の研究室を見学する機会を得た。優勝した学生達が、見学した研究室の教授から自分の研究に対するフィードバックや助言をもらったことは、その後の研究にプラスとなり、人的ネットワークを広げる機会ともなった。また、JR研究所の見学や東京周辺の旅行も実施した。過去のTICAの優勝者の中には、現在東京工業大学など、日本へ留学した学生が何人かいる。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

TICA 論文大会については、まだ改善しなければならない実施上の課題があるが、このイベントをこれからも継続していきたいと考えている。

4.インドネシア人留学生の世界大会について

昨年 9 月 20 日から 22 日まで、三日間に渡り東京工業大学の大岡山キャンパスにおいてインドネシア人留学生の世界大会が行われた。本節では、その大会実行について述べる。

世界大会について述べる前に、インドネシア人留学生会の組織の構造について簡単に記述したい。インドネシア人留学生が学ぶ日本の各大学にインドネシア人留学生会がある。東工大インドネシア人留学生はその中の一つである。そして、北海道地域から九州・沖縄地域まで 9 つの地域に、その地域の大学のインドネシア人留学生会から構成される地域委員会がある。そして、9 つの地域委員会をまとめる中央委員会となるのは在日インドネシア人留学生協会である。インドネシア語では、在日インドネシア人留学生協会を PPI Jepang (Persatuan Pelajar Indonesia di Jepang の略)といい、1953 年 6 月 24 日に東京で創立された。さらに、在日インドネシア人留学生協会は OISSA(Overseas Indonesian Student Association Alliance)という世界インドネシア留学生協会連合に所属している。OISSA のメンバーは様々な国に所在するインドネシア留学生協会であり、現在では、45 カ国のインドネシア留学生協会がメンバーとして所属している。

インドネシア人留学生の世界大会は OISSA の年中行事の一つである。世界大会は 2009 年にオランダのデン・ハーグ市で最初に開催され、次いで英国のロンドン、マレーシアのクアラルンプール、インドのニューデリー、タイのバンコク、そして昨年は東京で開催された。開催国はその国のインドネシア留学生協会が事前に申請し、そして世界大会の最終日に投票で決まる。今年はシンガポールで開催される予定である。

本世界大会では、各国のインドネシア留学生協会の代表が参加し、幾つかの話題についてのディス

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

カッションや、招待した著名人による講演やシンポジウムが行われる。ディスカッションでは主にインドネシア国内で起きている問題およびその原因や対策方法について議論を行い、OISSA の、つまり海外にいるインドネシアの学生として、正式なステートメントや提案を出している。また、シンポジウムでは、様々な分野で活躍している有名なインドネシア人を招待し講演をしていただく。過去の世界大会ではインドネシアの大統領または大臣が出席したこともある。

次に、昨年9月20日から22日まで大岡山キャンパスで開催されたインドネシア留学生世界大会について述べる。本世界大会はOISSAの年中行事であると前述したが、実際には、在日インドネシア人留学生協会が実行委員会として開催した。本世界大会では、30カ国のインドネシア人留学生協会の代表や日本国内にある各大学のインドネシア人留学生会の代表、一般の参加者などが出席した。

大会の一日目には、開会の辞やインドネシアの国歌斉唱の後に、駐日インドネシア共和国大使であるユスロン・イーザ・マヘンドラ氏による「世界へのインドネシアの若者の貢献」というテーマの講演が行われた。次に、駐日インドネシア大使館教育部長であるイクバル・ジャワッド（博士）氏により「インドネシアの人材ーその可能性、展望、課題」というテーマで講演が行われ、その後にパネル・ディスカッションを行った。この講演では、教育及び専門知識の面でのインドネシアの人口分布について説明された。インドネシアは2020年から2040年までの間に人口学的なボーナスの状態にあり、この人口学的ボーナスをインドネシアの発展のために最大限に活かすために、インドネシアの若者は重要な役割を担っていること、また、人口学的ボーナス[1]状態の国によく起こる中所得のトラップ[2]という問題と、それを克服するためのアイデアについても説明された。パネル・ディスカッションでは、各国からのインドネシア留学生協会の代表や他の参加者から熱心に質問や意見などが述べられ、会場は非常に盛り上がった。その後、学生による第二のパネル・ディスカッションを行った。具体的には、当時のOISSAの会長、アジア・アフリカ地域からのインドネシア留学生協会の代表、ヨーロッパ・アメリカ地域からのインドネシア留学生協会の代表をパネリストとして、インドネシアで起こっている様々な問題に対するパネル・ディスカッションを行った。インドネシア人留学生はその国から何を学び、学んできたことを母国の発展のためにどう活かすのかについて議論を行った。留学先の国あるいは地域によって文化や価値観、習慣などが異なっているため、非常に興味深いディスカッションとなった。最後に、AYNJ(ASEAN Youth Network in Japan)に属するインドネシア、フィリピン、タイ、ベトナムからの留学生の代表が、各国の話題や日本とのネットワーキングなどについて発表するするパネル・ディスカッションで、一日目のプログラムが終わった。

二日目は、二つのパネル・ディスカッションが行われた。一つ目のパネル・ディスカッションは、

[1] 労働力増加率が人口増加率よりも高くなることにより、経済成長がもたらされること。
[2] 国の所得が中レベルになると、貧富の拡大等の急激な発展による問題が顕在化し、経済成長が停滞する減少。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

「科学技術の分野でのインドネシアの発展及びその課題」をテーマとし、北陸先端科学技術大学院大学のコイルー・アンワル(博士)氏及び CTECH Labs EdWar Technology の社長であるワルシト・タルノ（博士）氏から講演をしていただいた後、ディスカッションを行った。次のパネル・ディスカッションでは、近年インドネシアで著しく成長してきたバンタエンリージェンシーのリージェントであるヌルディン・アブデュラー氏及びインドネシア銀行の代表であるムハマド・アンワル・バソリ氏により経済や政治の分野からみたインドネシアの発展について議論していただいた。二人のスピーカーは具体例や話題を述べて会場を盛り上げた。特に、ヌルディン・アブデュラーリージェントは九州大学の卒業生であり、日本で留学中に学んだことやネットワーキング、人脈などをバンタエンリージェンシーの発展のために活かし、まさにインドネシアと日本の間の架け橋として活躍している。

大会の 3 日目は OISSA の会長及び役員の選任、OISSA のイベント・活動のディスカッション、次回のインドネシア留学生世界大会の開催国の選出などで終了した。

本インドネシア人留学生の世界大会を通じて多くのことを学ぶことができた。準備の段階では、東京工業大学の関係者やインドネシア大使館の関係者、他の大学のインドネシア人留学生などと協力してネットワーキングが広がった。さらに、本大会では、他の国に留学しているインドネシア人と交流することができた。留学する先の国によって文化や価値観、考え方などが異なるので、意見を交換することができて色々なことを学んだ。

5. おわりに

東工大インドネシア人留学生会は、前述したように様々な活動を通じて、日本とインドネシアの架け橋として今後も積極的に活動したいと思っている。また、TICA 論文大会のように、学生として母国の課題について議論し、その対策を提案して具体的に行動することを通じ、卒業後、将来的に母国の発展のために本当に役に立つ人物になりたいと希望している。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.